

平成28年度第3回社会教育委員会会議録

日 時 平成29年3月28日(火)

13:30~14:40

場 所 第2庁舎 1階会議室

出席委員 山口議長、小林副議長、池永委員、大澤委員、中川委員
藤島委員、松尾委員（7名）
欠席委員 榎本委員、辻委員、山本委員（3名）
事務局 教育委員会教育部：和野教育長、瀬能次長
生涯学習課：鍛冶課長、木戸主査、飯島主査、久保主任主事
教育部：勇払公民館：佐藤副館長、科学センター：相内囑託館長
美術博物館：荒川囑託館長

1 開 会 (進行) 鍛冶課長

2 挨拶

山口社会教育委員会議議長

和野教育長

3 諮 問 第五次生涯学習推進基本計画策定に係る諮問

4 議 事

(1) 平成29年度 生涯学習課、各施設の事業概要について

資料に基づき、平成29年度社会教育費当初予算の説明は生涯学習課長、
生涯学習課（文化会館、文化交流センター）、中央図書館、勇払公民館
科学センター、美術博物館の各担当から説明

《質疑の主な内容》

委 員：図書館は新規の事業は新規と記載がありますが、他は記載がないので新規、
継続と記載があると分かりやすい。

事 務 局：次年度以降は継続か新規事業か分かるような統一した様式となるよう改善
します。

委 員：科学センターで新規事業はありますか。

事 務 局：新規の事業としてはありませんが、巡回展は内容を変えて実施しています。

委 員：科学・工作教室も例年同じでやっていますか。

事 務 局：28年度ですと、NECの「アマチュアラジオを作ろう」ですとか飛び込

みで入ってくる事業もありますが、自主事業で行っているものはここに記載のものです。

委員：科学に興味のある子供さんは継続して参加したいと思うんですが、毎年同じテーマではなく2～3年サイクルで変えてみてはどうですか。

事務局：科学・工作教室の作るものやテーマは毎年異なっています。教室名は同じですが、毎月・毎年作る内容は違います。

委員：H-2と書かれていますけどH-1 ロケットではなかったでしょうか。

事務局：H2 ロケットはミール展示館の入り口からすぐ上にありそのミニチュア版です。入り口の上に置いているものです。ミールの北側の後ろの方には断面が見えるものもあります。

議長：平成29年度の事業概要ですが、苫小牧ならではの目玉となるような施策がない。毎年同じような事業を行っている。全道の社会教育委員会議に参加していますが、各自治体で特色ある事業を行っています。例えば赤平では高校生の食堂経営、足寄町では木材の町ですのでクラフトキャンドルなど、教育委員会がバックアップして行っている所もあります。苫小牧では「ななかまど教室」はアピール出来る事業とっております。苫小牧の教育行政の中で今年が目玉が見えてこないのが現状ではないかと。今後教育行政を担当の方々をお願いをしたいと思います。

委員：わたしも同感です。市民が作り上げていく。科学館もそうですし図書館もそうですし市民の力で築き上げていくことが、まちを愛していく子供の教育に最適ではないかと。もし子供が市外の大学に行って戻ってきて、自分達が教育する場所があると帰りやすい。学校教育もそうでしょうが社会教育ということに関して全国にアピール出来るような、市民が作り上げていくような施策を各施設競って実施してはと思います。

委員：苫小牧に来て一年になりますけど、事業が多くあり、まち全体がキッズニアになるように育てていけるのではと思います。今の事業概要でいきますと大人が科学を教えるだけでいいかなと思うが、中高生が小学生に教えたりバックヤードツアーではないですが、裏を見せて市民のためになっていることができたらいいと思います。図書館でも科学センターでもやっていけるのではないかと思いました。

事務局：各委員のご意見はおっしゃるとおりではありますが、現在、第4次生涯学習推進計画に基づいて事業を行っています。これから作成する新しい計画作成の中で今の意見を出していただき、次年度から議論を行いたいと教育委員会としては考えています。

事務局：先ほどの委員のご意見について補則説明させていただきます。科学センターでは「科学の祭典苫小牧大会」という事業がございます。市内の高専や工業高校、東高校の科学クラブの学生がブースを出しています。科学センターで学習した子供が高校生になって科学クラブに入り、教えています。王子製紙さんやトヨタ自動車さんもブースを開いて説明してくれています。

が、この事業概要に記載はありませんが宇宙少年団で育った生徒さんが後にJAXAの職員になったり優秀な生徒さんもいます。

また、体験事業の中でわくわく教室があり、南極観測隊に行かれた拓進小学校の先生に授業を行っていただきました。

委員：障がい者の「がい」をひらがなで表記しているのは何かあります。

事務局：以前は漢字で表記していましたが、漢字のイメージが悪いということで苦小牧市ではひらがなで表記しています。

(2) 第五次生涯学習推進基本計画策定に係るスケジュールについて

資料に基づき事務局から説明

*主な質疑なし

(3) 生涯学習に関する市民アンケート結果（報告）

資料に基づき事務局から説明

《質疑の主な内容》

委員：アンケート結果ですが、いずれの調査も60歳以上の方が半数以上で実際に活動を行っている方の年齢別の回答結果が必要ではないか。若い人が何を求めているか見えてこない部分があります。

事務局：今回は次期計画を作成するためにアンケート調査を実施しましたとの全体の報告として出させていただきました。次回からは内容について細かく年代別に分析しその結果を見ていただいて、委員の皆さんに議論していただきたいと考えています。

議長：アンケート結果をしてみると、広報活動の工夫が必要と感じます。夜間の講座を開設してほしいとの意見も多い。参加させるための工夫も必要と思います。

委員：生涯学習活動を行っていない理由で、「希望の講座がない」とありますが、逆に何の講座を希望するカリサーチの必要があるのでは。

事務局：どんな講座をと聞くのは理想的ですが100人いれば100とおりの答えがあるように思います。どのような方法がいいのか、これだというものを言い切れない部分があります。

委員：苦小牧市は工業のまちなので、工場があつたりします。地域としてバックアップできるような、資格を取ったり技術を地域で育てて地元の企業に還元というようなことが出来たらよい。

事務局：地域で技術者を育てる範囲になれば、工業労政等の範疇になってしまうかもしれませんが、今全国的な生涯学習計画のトレンドとしては学んだ成果を活用して次の人を育てていく知識を循環するサイクルを作るのが今のト

レンドとなっています。今のご意見も生涯学習計画とも通じるところがあると思いますので、来年度に入りましたらやっていきたいと思います。

委員：生涯学習を理解していない、知らない人がいるというのが気になりました。講座の最後に生涯学習の定義を伝えたり、行政の方から伝えていただく事で、自分のこととして捕らえられるようになるのではないかと。そうするともっと積極的になるかと思います。

事務局：苫小牧市総合計画の中での生涯学習関連では、生涯学習を行っているのが34%、今回の私どものアンケートでは28%で、大体30%位と考えている。

生涯学習を自分事として考えていないというのは、広報が上手くできていないのかと。市では年2回、「生涯学習だより」で伝えているが、内容の見直しを含め生涯学習についてアピールしていく方法を考えていきたい。

委員：トレンドである循環型は、伝えていくのが難しく全国的な悩み。

趣味的なものに関しては内容的に循環型はしなくても良い。自分だけがわかっていて、それがにじみ出て周りに影響を与えて、学ぶことについて興味が湧く。生涯学習としてのアンケートとして読み取るには、区別してみていかないといけない。

(4) その他について

事務局より次回開催予定について説明